

④作業開始時点検に関すること

農業機械の日常点検 (ディーゼルエンジン トラクタ)



『作業手順 エンジンオイルの点検』

作業を始める前に、必ずエンジンを始動する前に、エンジンオイルの油量を点検します。

トラクタを平らな地面においた状態でオイルゲージで油量を点検して下さい。
オイルゲージのM I N～M A Xの印の間でない場合は、注入口のキャップをはずして、新しいオイルをM A Xの位置まで注入します



写真左 オイルゲージでオイルの量をチェック

写真中 オイルジョッキでオイルを注油 M I N～M A Xの間。

写真右 オイルの量が不足していれば補給



『作業手順

燃料タンクの油量のチェック燃料漏れの点検』

燃料は作業後に給油するのが基本となる。燃料タンクに水蒸気を残さない。エンジンへの水の混入を防止



燃料タンクの油量のチェック作業

写真左 トラクタは、パネルの燃料計で確認

写真中 作業前に燃料が満タンであることを確認
満タンでない場合は、給油

写真右 トラクタの始動前に必ずトラクタの下に水、オイル、燃料の漏れた痕跡がないか確認。漏れがないことを確認してから始動



『作業手順 冷却装置の点検』

ラジエーターの水量点検

写真左 ラジエーターのサブタンクがついているトラクタはサブタンクでチェック

写真中 古くサブタンクのないものはラジエーターキャップをはずす。高圧の蒸気と熱湯に注意

写真右 水量が足りない場合は、ロングライフクーラント（LLC）を補充



『作業手順 電気系統の点検』

ブレーキランプや方向指示器の作動チェックは作業前には必ず行います。

不良がある場合は随時交換します。

パネルに警告ランプが出た場合は担当に報告します



電気系統は

写真左 パネルで機械の不具合を確認

写真中 方向指示器、ブレーキランプの作動を確認

写真右 前方からの方向指示器の点灯確認



『作業手順 走行装置：テスト走行で確認』

ハンドル（ステアリング）のガタやブレーキのききや片ブレーキとクラッチの滑りについては、車庫から公道に移動するまでに、確認します。不具合があれば担当者に報告します



写真左 ステアリング 写真中 クラッチ 写真右 ブレーキ



『作業手順 タイヤの空気圧 リム・ハブのボルトの緩みをチェック』

写真左 目視で、左右のタイヤの空気圧を確認

写真中 リム・ハブのボルト・ナットの脱落や緩みがないか目視でチェック

写真右 ボルト・ナットの増し締め作業を実施





定期点検（毎月） ディーゼルエンジン（トラクタ）



『作業手順』

燃料ホースの接合部分の燃料の漏れの点検』

『作業手順 エンジンオイルの漏れの点検』

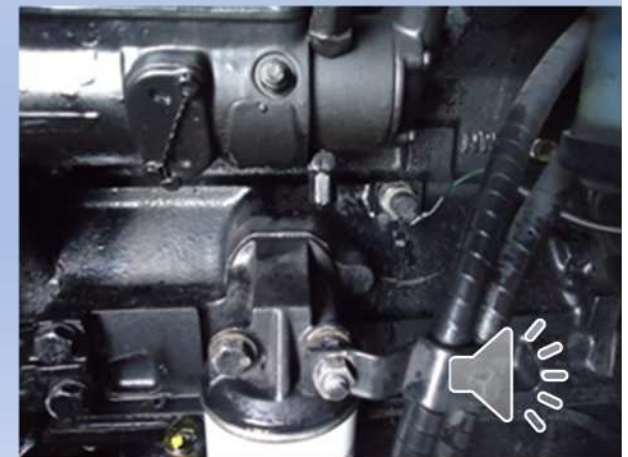
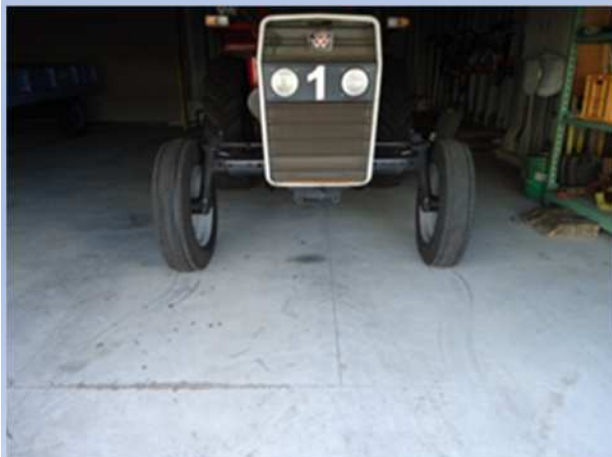
写真左 トラクタ本体の下の方の燃料漏れ・オイル漏れを確認

写真中 燃料フィルタや燃料ホース付近からの燃料漏れを確認

写真右 接合部分からのオイル漏れを確認

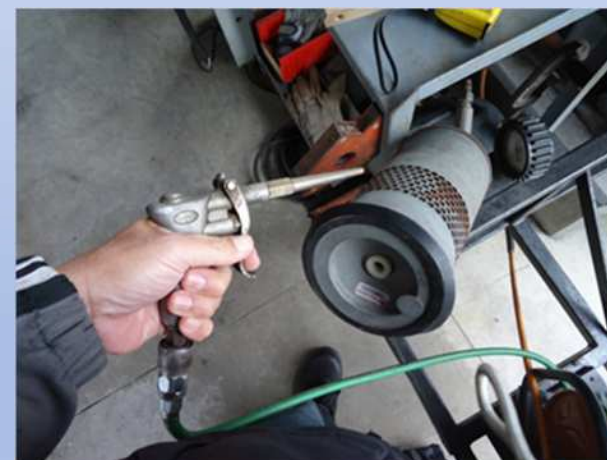
締め込みで対応できるところは締め込みを実施

燃料・オイルが漏れる場合は、担当者に報告します



『作業手順 エアクリナーの埃や汚れの清掃』

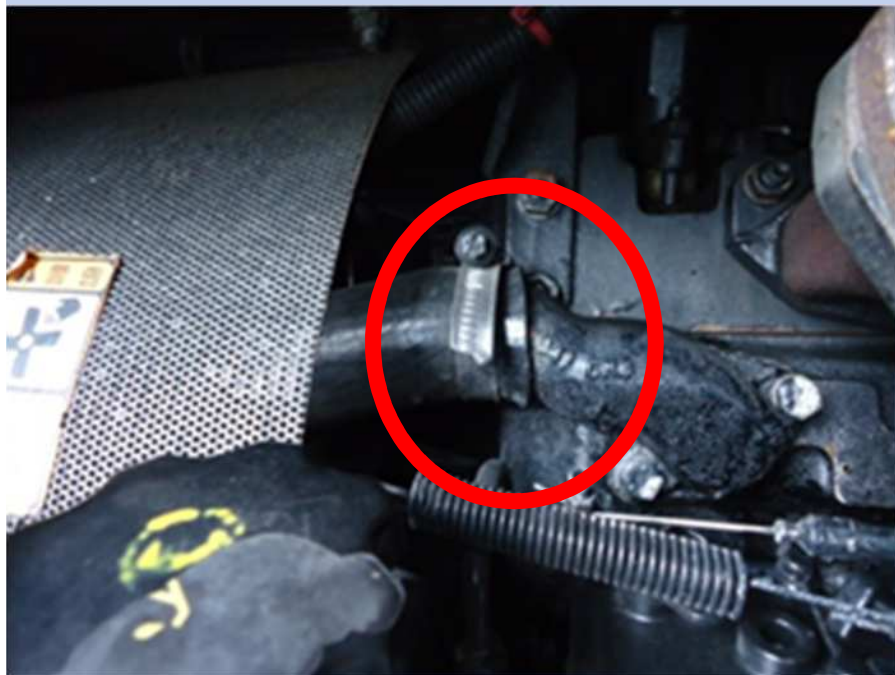
- 写真左 エアクリナーのふたを取り外して、エレメントを取り外します
- 写真中 軽くたたいて埃の状況を確認
- 写真右 埃が多い場合はエアーガンで清掃を実施



『作業手順

ラジエーター付近からの水漏れの点検』

写真 ラジエーターホースの継ぎ目の水漏れ確認
増し締めで水漏れが止まらない時には、担当者に
報告します



『作業手順』

ファンベルトの緩み・バッテリーの点検』

トラクタの始動が悪くなった場合は、

写真 左 ファンベルトの緩み バッテリーの劣化を確認

写真 中 メンテナンスフリーバッテリーは、中央に交換の表示がされます

写真 右 通常のバッテリーは、充電器で充電して電圧を測定して判断します
それ以外にオルタネータの故障があります
改善が見られない場合は担当者に報告します



『作業手順 タイヤの空気圧とリム・ハブ のボルトの緩みをチェック』

写真左 タイヤの空気圧の点検

写真中 整備用タイヤゲージとコンプレッサの設置

写真右 リム・ハブのボルトナットの増し締め



『作業手順 グリスアップ (グリスを注入) 』

写真左 グリスガン

写真中 グリスを注入するためのグリスニップルが多くあるので、取扱説明書を見てグリスアップを実施

写真右 可動部にはグリスニップルがあります。忘れないようにすべて行います。



『作業手順

作業機のグリスアップ・オイルの点検

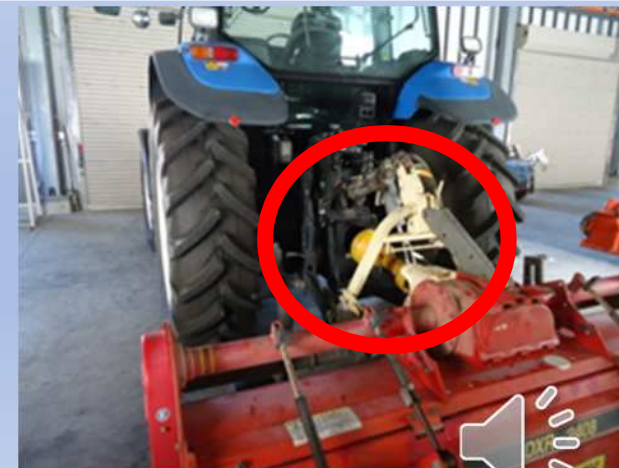
ピンの脱落の有無の点検』

作業機は、作業を行う前に必ず、オイル漏れの有無の確認とグリスの注油をします。

写真左 ロータリのチェーンケース付近の油漏れの点検

写真中 ユニバーサルジョイントのグリスアップ

写真右 トラクタと作業機はヒッチ・ジョイントをピンで留めているので脱落がないか確認





4 サイクルガソリンエンジンの点検（毎月）

（動力噴霧機、管理機、田植機）



『作業手順 燃料・オイルの点検』

4 サイクルエンジンを利用する作業機

(動力噴霧機、管理機、田植機)

写真左 エンジンのオイル漏れと燃料漏れを床と機械で確認

写真中 エンジンオイルは漏れていなくても減るので検油棒で点検確認

(すくない場合は補給。エンジンの焼付の原因)

写真右 燃料ストレーナーの汚れの確認

長期に使用しないときは、キャブレター内の燃料を空にしておきます。燃料コックを閉じて、燃料がキャブレター内になくなり、エンジンが止まるのを待ちます





2 サイクルガソリンエンジンの点検（毎月）

（刈払機、背負動噴、背負散布機，チェーンソー )

『作業手順

燃料・グリスアップ・安全装置の点検』

2サイクルエンジンを利用する機械

(刈払機、チェーンソー、背負動噴、背負散布機)

写真左 燃料漏れとプライミングポンプで燃料を確認

写真中 刈歯のとりつけ確認と傘歯車のグリスアップ

写真右 警告マークの確認



『作業手順』

2サイクルエンジンの始動の手順』

2サイクルエンジンを利用する機械

(刈払機、チェーンソー、背負動噴、背負散布機)

燃料は混合ガソリンを使用していることを確認して給油

(オイル：ガソリン 1：50または1：25)

写真左 プライミングポンプで燃料をキャブレーターへ送ります

写真中 チョークを閉じる

写真右 ①スターターを引きます ②エンジンが初爆 ③チョークを開く ④スターターを引いてエンジンを始動

